

令和元年度 第 2 回 学校運営協議会記録

	学校名	男鹿市立美里小学校
開催日時	令和元年 7 月 1 9 日 (金) 1 5 時～1 6 時 3 0 分	
出席者	児玉 守美 角崎セル子 村井 一仁 嵯峨 富子 嵯峨 富子 加藤 初子 山田真由美 鈴木美津子 (地域コーディネーター) 小玉 智 佐々木伸一	
協議内容 委員発言内容 等	<p><会長挨拶></p> <p>会 長： 第 2 回の学校運営協議会に参加していただき、ありがたい。前回の会議で会長に決まった。力不足だが頑張りたい。</p> <p>これまで P T A の一員としてなど学校に関わってきたが、若美公民館に勤務し社会教育に携わっていた 3 0 代の時、指導主事訪問で保坂先生が来られたことがあった。保坂先生は社会教育、学校教育に造詣が深く、特に学校教育について熱心にお話をされる方だった。保坂先生の「学校は先生、児童に任せっきりにするとすぐに駄目になる。地域の誰かがやらなければならない。」という言葉が、今でも頭から離れない。学校に協力すべきという考えは、3 0 年前から変わっていない。</p> <p>今後もよろしくお願ひしたい。</p> <p><夏休みまでの教育活動を振り返って></p> <p>校 長： (資料を基に説明)</p> <p>美里小学校は保護者の皆様や地域の方々に大変お世話になっており、本当にありがたい。地域の物や人が関わっている教育活動が多いこと、縦割り活動が多いことの 2 点が本校の特長だと思う。この 2 つの活動について、意識的に校報に取り上げたり、ホームページに掲載したりしている。縦割り活動では上級生が自己有用感を感じるとともに、下級生のよきモデルとなっており、下級生のあこがれとなっている。</p> <p>A 委員： 行事が大変多いと感じたが、地域との交流を通していろいろな有意義な体験ができていないか。また引率する教師と地域の人との関わり見て、社会に出ていく力が自然に身に付くと思う。</p> <p>B 委員： 美里小学校と幼稚園、保育園との交流会だが、昨年度までは若美幼稚園とやっていたものに、美里小に入学する子どものいる他の 3 つの園も参加することを企画した。園の子どもたちは見通しやあこがれの気持ちを持ち、小学生は立派な姿を見せる機会となり、双方にとって有意義だった。移動手段など課題もある</p>	

<p>協議内容 委員発言内容 等</p>	<p>C委員： 移動の際，スクールバスを活用できないか。 教 頭： 年間の利用できる回数が決まっている。 D委員： バス会社との絡みや，運転手の勤務態様の問題もあるだろう。 B委員： バスは空いていると融通してくれる。園児数が少なくなってきたおり，3つの園が合同で実施している行事もある。人数の関係で配置されるバスも決まる。人数が少ないということが課題である。</p> <p><学校支援ボランティア名簿について> 教 頭： （資料の説明） 「学校支援ボランティア」の名簿はかつて募集した時，登録して下さった方々である。学校のニーズに合わせて声を掛けるが，十分に活用できていない。どう活用していくか，また見直しや再募集をするかが課題である。 「学校環境ボランティア」の名簿は，昨年度，地域の中田敏彦さんが人を集めて校地内の桜の木の剪定や投棄して下さったが，その時，中田さんが下さったものである。</p> <p><意見交換> E委員： 保護者としての感想だが，運動会を小中合同でできないか。 校 長： 中学校と協議の場を設けたい。 F委員： 行事が多いということは，その分，先生方の負担が大きいと思う。職員は大丈夫か。 教 頭： 本校は経験豊富な職員が多く，対応できている。子どもや保護者，地域の方々に助けられている。不登校児童もいない。</p> <p><諸連絡> 校 長： 次回の第3回運営協議会は，前半に前期の学校評価についての説明，後半は潟西中と合同での話し合いを行う予定である。昨年度，道徳教育拡大連絡協議会を発足させたが，これを発展させ小中合同の運営協議会にした。地区ごとに行っている（やれそうな）活動について話し合い，紹介し合いたい。あくまでも無理をせずやれる範囲で，小中連携を視野に入れた地域連携を考えていきたい。</p>
------------------------------	---